



発行 2023年2月1日

**2** 月 第252号

**奈良・人と自然の会**



<植樹した木々の成長を喜ぶ、里山グループ>



# Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	佐保川小学校学習支援・レポ	8
Monthly Repo ならやま	2	ならやまプロジェクト報告会・レポ	9
里山の今（里山・果樹）	3	私の趣味 いつも自然と共に	10
里山の今（虫だより・花だより）	4	Galleryならやま	11
新春初出式・レポ	5	行事案内	12
三輪山登拝・レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
新春講演会・レポ	7		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

一年で最も寒い季節。朝早くから焚火を準備していただく有志の方々に感謝。暖かい焚火の周りには笑顔があふれる。コロナやインフルエンザの感染、火の用心に気を付けながらも身も心も温まる。

この季節は生き物が寒さに耐えて活動を休止している。実生から育てたコナラ、クヌギの苗木もじっと寒さに耐えていて、広い棲み処に植樹されるのを待っている。2月のイベントでは子供たちの助けを得てシイタケの菌打ちとコナラ、クヌギの植樹を行う。春には陽射しをあびて目を覚まし、数年後には里山林の主演として成長し、そして20年後には、楢木や薪として役立ってくれることだろう。その姿は私たちは見ることができないだろうけれど、きっと豊かな里山林が受け継がれていると信じたい。



昨年2月に植樹されたコナラ

1月24日、初めての「ならやまプロジェクト報告会」が開催された。各グループとも活動への強い思い入れから予定した時間では収まらず、全体を通じて話し合うまでに至らなかった。けれども、これがグループの垣根を越えて今後の活動のあり方を考える第一歩として次につながるようにしたい。

## 2月の活動特記事項

2月2日(木)：協働活動(コナラ・クヌギ植樹準備、アダプトプログラム)

2月18日(土)：シイタケ菌打ちイベント

## 2月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	シイタケ菌打ちイベント対応(楢木、植樹、遊具) 里山林内整備、薪割り ユート：アカマツの森でのマツの間伐整備
エコファーム	エンドウ・そら豆誘引支柱立て、冬野菜跡整備、リーフレタス移植、 ジャガイモ畑整備、水田畔整備、鹿ネット補修
景観	整備：ならやま大通り法面竹林整備、ミツバチ巣箱整備 ビオ：西池補修・木道整備 花：紫陽花園草引き、寒肥はり
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、保護植物周辺整備
果樹	コンポスト作り、ブルーベリー植え床造り、剪定残渣のチップ処理

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



**Monthly Repo. ならやま**

富井 忠雄

12月22日(木) 曇りのち雨 57名

アダプトプログラムのゴミの収集を行う。今日は冬至であり、ゆずが提供された。

里山GはNo.18地区でチップ処理、薪割り、ミニ門松用部品作りなど。エコGは牛蒡掘り、ハウスの修理、大根などの収穫と販売。景観Gは佐保自然の森の竹林整備。花班はノウゼンカズラの剪定、イチハツの草取りなど。ビオトープ班はビオエリア内の水路、3面側溝、水田東側水路の補修。パトロールGはアダプトプログラムに参加、1コースのパトロール、丸太階段補修。果樹Gは実りの森の鹿対策ネットの補修など。



12月29日(木) 晴れ 60名

新春向けの門松、干支作り。野菜の販売は11時15分より始まり、完売。各Gは整理整頓を行い活動は午前中で終了。

里山Gは門松作り、薪棚周辺片付け整理、干支工作、ミニ門松作り。エコGは今年最後の野菜の収穫、販売、エンドウ苗の植え付けなど。景観Gは実りの森の整備前の調査。花班は駐車場横の花壇の草取り、カワラナデシコ移植など。ビオトープ班はビオエリアの入口を真砂土で補修、水路掃除。パトロールGは会員向け観察会の下見、備品の点検など。果樹Gは正月用の梅の枝の準備、実りの森の鹿対策ネットの補修。

1月5日(木) 晴れ 70名

初出の日。午前中は餅つきと七草粥作り、昼からは10年継続会員記念植樹が行われた。そ

の後、パトロールGが自然観察会(冬芽)を実施。

里山Gは新材料の運搬、椎茸イベント打ち合せなど。エコGは牛蒡、人参収穫後の畑の整備、大根などの収穫と販売。景観Gは実りの森の竹林整備の調査など。花班は駐車場横花壇の草取り整備など。ビオ班はビオエリアの入口を真砂土で補修。パトロールGはミーティング、自然観察会コース下見と観察会の案内。果樹Gは実りの森果樹園の鹿の侵入確認と対策など。



1月12日(木) 晴れ 65名

正月用の門松、しめ縄などの撤去、鉄くずなどの収集を行う。

里山Gは椎茸榎木用コナラの玉切、チップ処理、薪割り。エコGは堆肥作り、里芋掘り、大根などの収穫と販売。景観Gは実りの森の竹林伐採整備。花班は山野草園、アジサイ園の草取り。ビオ班は西池の葦の刈取り、スイレン池の泥上げ。パトロールGは3コースのパトロール、A地区の竹伐採整備、丸太階段補修など。果樹Gは梅の剪定、鹿対策ネットの補修など。

1月19日(木) 晴れ 73名+1名

奈良大学の学生1名が見学に来た。新春講演会のお礼。里山Gはテント裏の枯損木の片付け、コナラ榎木の玉切り、チップ処理。ユートピアは赤松林の整備。エコGは玉葱の除草、里芋種の保存、大根などの収穫と販売。景観Gは実りの森の竹林伐採整備。花班はアジサイ園の草取り。ビオ班は蓮池西側通路の改修補修など。パトロールGは保護植物の整備、A地区竹林の処理。果樹Gは梅林に寒肥を施す。

里山グループ



果樹グループ

里山の恵みを楽しむ

戸田 博子

里山で活動している時、色々な人たちと話しをしながら楽しんでいる。

エコグループのお野菜を買いながら料理のヒントをもらい、パトロールの人に鳥や虫を見つけるコツを教えてもらうなど、里山は宝探しゲームのような気分だ。

去年の秋、また新しい知識をもらった。同じ活動仲間から木になっている黒い実がおいしいジャムになるのを教えてもらった。「ナツハゼ」という木で、ブルーベリーより小さい実なのだが、食べても種が感じられない。コケモモや他のベリー系の実は種があり、ジャムにした時少し気になる。

教えてもらった通り採ってお鍋で煮ると、それはきれいな紫色の滑らかなジャムになった。実が小さいので、すぐに煮える。ジャムというよりソースに近い仕上がりになる。(裏漉し必須)

味もブルーベリーより上だと感じた。

里山に何本かナツハゼはあるようだが、全く実がついていない木もある。鳥が先に食べたのか？ 今まで気がつかなかったのは、何と残念な事だろう。春にはきっと、小さい花がたくさん咲くと想像される。

忘れずにこの木の場所に行き、「たくさんなあれ」「鳥さん以外、私たちにも分けて！」とお願いしよう。

たくさん採れたら、会員の皆さまにも賞味していただきます。乞うご期待！



今年、元日から続けていること

柴田 秀男

5時20分に目覚まし。すぐに着替える。ズボンにオーバーパンツ、ダウンを着て、靴はナイキのジョギングシューズ(非常に歩き易い)、ナイキのキャップ(車のライトに反射)、胸のポケットにスマホ(歩数用)、ガーミンのGPS付時計(距離とタイム計測)、携帯用ラジオ(東芝イヤホンは右のみ)。

5時30分、FM91.9Hz 生島ヒロシの『おはよう一直線』の放送とともに散歩スタート。以前は歩道を歩いていたが、車音でラジオが聞きづらく、住宅街にコース変更。約20m毎に防犯灯があり、暗くても歩き易い。早歩きで時計のラップを見ると、1キロ9分40秒前後。サッサッサッと歩き、60分6キロが目標、割りと速い方だと思う。今までに抜かされたことはない。

ほぼ毎朝同じような人と出会う。ゴミを出す人、通勤の方、散歩する人、たまに赤いロードバイクで颯爽と駆け抜けていく方とすれ違う。この人とは話したことはないが、互いに手を上げて挨拶をする。

ラジオの中身はニュース、占い、時事ネタ、檀れいの今日の1ページ、檀さんの優しい声に癒される。1月1日スタート、雨や用事の日もあるが、ほぼ9割歩いている。6時30分に帰り、汗をかなりかいているので着替えて朝食。これが実に旨い。その後、岩崎さんからいただいたレシピで作ったショウガジャムをお湯で薄めて一杯。体がポカポカしてきて、また、家を飛び出しそうになるが、ここは我慢。8時から朝ドラを見て、1日がスタート。何とか今年1年続けばと祈っている。

帰宅するとまだ暗いが、少しずつ朝日の出る時刻が早くなり、朝日に向かって歩けることを楽しみにして、今はワクワクしている。

虫だより

成虫で越冬している昆虫

菊川 年明

真冬に成虫の姿の昆虫を見かけることはあまりありませんが、朽ち木の中、土の中、木の洞、落葉の上などいろいろな場所で成虫の昆虫が越冬しています。昨年この時期に越冬昆虫を紹介しましたが、今回はその続きのような記事です。

朽ち木の中や木の皮の裏などにはオサムシ類、コメツキムシ類、クチキムシ類などの甲虫、スズメバチ類、カメムシ類、オオゴキブリなどをよく見かけます。越冬しているスズメバチ類はすべて新しい女王バチで、前年の女王バチ、働きバチ、雄バチはすべて11月頃に死滅しています。写真はスギの木の皮の裏に潜っていたオオトビサシガメ(カメムシ類)です。



風の当たらない木の洞や土のくぼみなどではよくクビキリギスが越冬しています。キリギリスの仲間ですが、キリギリス類で成虫で越冬するのはクビキリギスだけです。この虫は頭部がよく曲がるので胸部を上から掴むと頭部をねじ曲げて鋭い顎で咬みつきます。右の写真はくぼみで冬籠もりしているクビキリギスです。



落葉の上や風の当たらない葉裏などではチョウ類がいます。ルリタテハなどのタテハチョウ類、クロコノマチョウ、キタキチョウ、一部のシジミチョウ類などです。落葉の上はかなり暖かいです。右の写真は木の葉の裏で寒気に耐えているキタキチョウです。



里山の今



花だより

タラヨウ(多羅葉)

桜木 晴代

ならやまの駐輪場近くにある一本の木。和名はタラヨウ(多羅葉)。モチノキ科。別名ハガキノキ。雌雄異種。雌の木は赤い実をつけるが、雄か雌か不明。葉の裏に先の尖った小枝などで文字を書くと文字が黒く変化し残るため、経文を記したり紙の代わりに使われたりしていた。

今もハガキとして通用するのである。自然教室のK氏は小学校の自然観察会時には、常に子どもたちに実際に届いたタラヨウのハガキを見せていた。

Yさんと私も、子どもたちとの観察会用に手元に置くべく、それぞれ郵便局に出向いた。

Yさんの訪れた郵便局の局長はハガキノキの存在を知っており、傷めないで配達できる方法など工夫し、受け付けてくれたとのこと。私の訪れた局では若い局員が対応。ハガキノキの存在はご存知なく、葉がハガキになるなど思いもよらないと言う反応。度々局長に伺うためか奥に引っ込み、定規で葉の寸法を測ったり困り顔。「実際に同様の葉のハガキが無事に友人宅に届いたので、受け付けていただいて大丈夫ですよ」と、定形外郵便扱いのため120円切手を貼り、半ば強引に受け取ってもらった。「葉が傷むかも知れませんが」という言葉に「大丈夫です」と力を込めて応じ、タラヨウのハガキが我が家に届くのを楽しみに待った。・・・届きました。無傷で我が家に。私が私宛に送ったタラヨウのハガキです。・・・

葉に文字が残るのは葉の成分のタンニンが葉の内部の酸素に反応することによるもの。

この木は、会発足当時、会員が様々な木を持ち寄り植えた木の中の一つと判明。・・・10年継続会員の植樹同様、各木々へのそれぞれの人の想いを考えるのも楽しいのでは。・・・

## 新春初出式・レポ

坂東 久平

1月5日ならやま活動の初日にあたり初出式と10年継続会員記念植樹式が行われた。

冬らしい寒い日であったが、70名の会員が参加して初出に相応しい賑やかな一日であった。

### 初出式と餅つき

千載会長の挨拶、「昨年度は7件の怪我(保険対象)があった。今年は気を引き締めて安全第一で活動をしていきましょう」との発言があった。

コロナの感染は収まってはいないがウイズコロナで、3年振りで餅つきが復活した。餅つきと七草粥の準備で、石臼の据え付け、3基の釜で湯沸かし、蒸籠の準備など手際よく作業が進む。粥に入れる七草(セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ)も揃えられた。



各グループも活動を切り上げ10時半頃にベースキャンプに集まり、餅つきが始まった。ベテランの鈴木前会長や千載会長に続き、卯年の年男、年女や力自慢が杵を振るった。

昼食の時間となり出来上がったお餅(きな粉餅とおろし大根餅)七草粥が全員に振る舞われ、熱々の七草粥で寒さを吹き飛ばした。さらに追

加で黒米入り餅、白餅が配られ満腹の幸せをかみしめた。



### 10年継続会員記念植樹式

昼食後、ベースキャンプに近い藤棚(昨年の記念植樹)で10年継続会員の表彰があり、今年の対象者は10名で、有元康人、池田富子、太田和則、小島武雄、辻本信一、中川瑛雄、坂東久平、松本武彦、山本妙子、山本隆造の各氏で、この内8名が参加した。

昨年と同じ「九尺フジ」が藤棚の対角に植えられた。2本フジが成長し立派な藤棚となり、9尺の花を見せてくれるのを期待している。



千載会長から10年間の活動に労いの言葉があり、10年継続会員を代表して、坂東から入会当初に第5区(実りの森)で身の丈を越す熊笹と格闘した思い出や「健康の許す限り活動を続けたい」との挨拶があった。

## 令和5年大神神社初詣・レポ

中井 弘

1月10日(火)参加者21名。晴。残念ながら三輪山登拝はコロナ禍で中止となりました。

今年の参拝は、正面の拝殿ではなく祈禱殿となり、神官の厳粛なお祓いを受け「奈良・人と自然の会」行事と会員の安全を祈願しました。

大神神社にはご祭神・大物主神(大国主神・大己貴神と同神)を祀る本殿はなく、三輪山そのものを神体山として崇拝する、いわゆる神奈備山信仰であり、山頂の奥津磐座を大物主神とする磐座信仰とされます。

記紀では出雲の「大国主神」は、国造りの大己貴神や万物の主・大物主神など6つの別名を持ち、役割を分担していました。大物主神は出雲の神ですが、大和の三輪山の山頂に祭られて大神神社の祭神となりました。



次に「活日神社」(祭神:高橋活日命)に参拝。

「日本書紀」崇神天皇8年の条に、石上神宮布留川のほとり高橋邑に住む「活日」を大神神社の杜氏としたとみえます。祭りの日に活日は神酒を造って崇神天皇に奉り、「この神酒は 我が神酒ならず 倭成す大物主の醸みし神酒 幾人幾久」と詠みました。

山辺の道を20分歩いて、元伊勢といわれる「檜原神社」に着きました。大神神社の末社で



すが本社同様の「三つ鳥居」があります。

神武天皇以来、天照大神自身の意向に従って自らの霊である神鏡(八咫鏡)は天皇の御殿内で寝所を共にする「同殿共床」で祀られてきましたが、崇神天皇6年に疫病が流行り国民の大半が罹災しました。天皇は天照大神との同殿共床が祟ったと考え、その神威を畏れて皇女「豊鍬入姫」に託して、檜原神社の辺りとされる笠縫邑に神籬(ひもろぎ)を立てて神聖な場所として神鏡を収めました。

次の垂仁天皇25年に、その神鏡を皇女「倭姫」に託して納める土地を求めて近江(籠神社)、美濃など各地を経て伊勢に至り、天照大神が所望した五十鈴川の辺に遷されました。これが八咫鏡をご神体とする伊勢神宮「内宮」の創始とされます。天照大神が各地を旅した際に一時的に祀られたとされた場所、檜原神社や籠神社などが「元伊勢」と呼ばれています。檜原神社から見える二上山の秋分・春分に沈む夕日はこのほか美しいといわれています。

檜原神社から来た道に戻り、「大直禰子神社」(おおたかねこじんじゃ)をお参りしました。

明治の神仏分離令までは大神神社の神宮寺「大御輪寺」と呼ばれていました。当寺にあった有名な十一面観音立像は、廃仏毀釈を免れて平等寺を経て現在は聖林寺に国宝として安置されています。

大田田根子(=大直禰子)は、大物主神と須恵器の生産地・陶邑の首長の娘「活玉依姫」との間にもうけられました。崇神5年「日本書紀」には国内で疫病が流行り、人口が半減するほどの猛威を振るったとあります。天皇の夢枕に大物主神が現れ、わが子大田田根子を探して祭主とし、我を祀らせれば万事うまくいくだらうとお告げがあり、大物主神を祀らせるとさしもの疫病も収まりました。このような新しい疫病は、外国からの渡来人が持ち込んだ可能性が高く、最終的に収まったのは崇神7年であり2~3年間流行したことになります。

## 新春講演会・懇親会 報告

田中 善英

### 【講演会】

開催日：令和5年1月14日(土曜日)

時間：13時～15時30分

場所：奈良市中部公民館4階(講義室)

演題：「里山整備の為に考えていること」

～ 市民科学と里山 ～

講師：徳地直子先生

京都大学フィールド科学研究センター教授

聴講者：37名

最初に千載会長から、徳地先生は2017年、



緑化運動推進功労者の表彰式の場での出会いがきっかけで、会の活動を暖かく見守っていただいているとの紹介がありました。

先生から「地球環境問題」の解決に貢献する為、フィールド科学研究センターを設立し、生態系間の繋がりを研究する「森里海連環学」をテーマに活動しているというお話があり、講演がスタートしました。



人間が生態系の都合の良いところを利用し、効率の良い自然の使い方をして環境がどんどん悪化した。それで、環境を元に戻そうとしているが、何処まで戻せば、

どうすればいいのか判らない状態に落ちいつている。このことを前提に里山を考えてみたい。

「里山は何だろう、どのように使われて、今、どんな状態なのか。利用と植生の変化。森林の保全、持続的な生態系の利用とは・・・」。日々の活動の中で疑問に思っている事を正面から捉えたお話に引き込まれていきました。

里山は人里に近く、人手を多くかけて、生えている草木を利用するため、生物相を改変し、

植生の遷移を止めてきた(二次林の形成)。その結果、日本の山は木を切りすぎてはげ山になったが、昭和40年代の燃料革命により、森林の利用が減少した結果、生物相も変化している。

里山の4つの危機の一つが自然に対する働きかけの縮小である。そして、里山の賢明な利用が必要とされるが「新しい里山とは何か」よく分らない。「里山を維持する為には人為を加え続けなければならない。現在の利用スタイルで無理のない活動とは何か。一緒に考えませんか」と言う言葉で締めくくられました。

我々が日々の活動の中で思っている事を整理し、次の方向を示していただきました。そして感謝の拍手を送り、講演会が終わりました。

### 【懇親会】

時間：16時～18時

場所：ホテルリガーレ春日野(1階天平の間)

参加者：29名

講演会が終わり、場所を移動して懇親会を開催しました。まず、記念撮影をした後、懇親会の会場に移動し、



千載会長の挨拶に続いて鈴木顧問の乾杯の発声でスタートしました。



徳地先生も参加され、食事を交えて、講演会で積み残した意見交換が行われ、また

各テーブルではお話の花が咲きました。そして、宴もたけなわの頃、鈴木顧問から徳地先生との出会いについてのスピーチがあり、また、プロジェクターを使った、ならやまの活動風景、ドローンで空撮した風景などの映像の紹介がありました。カラオケがなかったので少し欲求不満気味ではありましたが、改めて「ならやま」を考え、お話をする機会となりました。

「寒い冬に木々たちは」

校庭自然観察教室

\*\*\*奈良市立佐保川小学校\*\*\*

富江 文雄

昨年10月に引き続き奈良市立佐保川小学校4年生(2組)を対象とした自然教室(学習支援)が開催され、当会から桜木、山本(美)、飯島、千載、富江の5名が講師として出席した。

第一組のスタート直前に雨が降り出し、急遽教室に戻り、千載会長から当会の簡単な説明と講師の紹介の後、木々の冬芽についての話を始めたところ雨がやみ急いで校庭に出た。

今回は校庭の一部を占める‘佐保川の森’に限定しての観察会なので、主な樹木としては

クスノキ、ハナミズキ

クヌギ、コナラ、アラカシ

(ドングリのできる木)

クロガネモチ、サクラ、イロハモミジ

を選んでそれぞれの木の冬芽を見ながら特徴を解説した。



冬期の自然観察では、殆どの木が葉を落とし、花も無いため、子どもたちにとって興味を持つ対象が少ないものであるが、小道具を用意することで対処する事が出来ると考え、桜木、山本(美)の両名に色々と準備をしてもらった。

ドングリに関して、根の出たコナラの実を集めておいて、それを実際に見せることで根がどこから出てくるかが分かり、それを配って家に持ち帰って、庭や植木鉢に移植して成長するか

どうか観察するように勧めた。

‘植物の種の散り方・運ばれ方’の解説

まずはイロハモミジの種がプロペラのように飛ぶ様子を見せたかったが、あいにく木に残っていないため、紙で作った模型で風の中で飛ぶ様子を体験させた。

さらにフタバガキの種が大きく飛ぶのを見た後で、型紙で作った模型を輪ゴムで飛ばす実験を行った。



初めは輪ゴムで飛ばすことに戸惑ったが、慣れてくるとかなり上空まで飛び、それが回転しながら落ちてくるのを見て、歓声をあげ何度も繰り返して飛ばすため、輪ゴムが切れてしまう児童が続出した。

これらのことから植物の種の散り方、運ばれ方の一環が学習出来たものと考えます。

受け持ちの先生から「コロナ禍のため外で走り回る機会が少ない時に、このような学習で子どもたちに貴重な経験をさせて貰った」との評価をいただいた。

これで、秋、冬と二回の自然教室を開くことが出来、学校から春、夏も入れて年4回の開催を提案された。新年度の事業として実施時期などを検討する事になった。



令和5年(2023年)1月16日実施

## ならやまプロジェクト報告会・レポ

千載 輝重

1月24日(火)13:00～ 中部公民館において、初めての「ならやまプロジェクト報告会」が開催された。参加者は35名。

ならやまでの活動を開始して16年。荒れ放題であった里山は見事に原風景を取り戻し、毎週木曜日の活動日には70名前後の会員が、その保全に努めている。活動開始当初ははるかに少ない会員が、ある日は山林に、ある日は畑作りに、ある日は草刈りにと、一体となって活動していたが、管理区域が拡大し会員の夢が広がるとともに、活動は多岐にわたり、現在は里山、エコファーム、景観、パトール、果樹の5つのグループに分かれての活動が主体となっている。一方、高齢化による活力の低下はこれまでの活動を維持するのを難しくしており、各グループともマンパワー不足状況にあって他のグループの活動に参加することも難しく、ならやまプロジェクトとしての一体的な活動を考える余裕もなくなっているように見える。

こうした状況にあって、これからのならやまプロジェクトのあり方を考えるためには、まず各グループのメンバーがその垣根を越えて、活動全体を理解し合うことが必要であるとの思いから、今回の報告会を企画した。

初めての試みでもあり、形式に縛られず、各グループには30分をお預けし、現状と今後についての考え方を分かりやすく説明いただき、参加者が自由に質疑できることを願って、進行を仕切ることは避けることにした。結果、それぞれのグループ活動への強い思い入れがやや冗長な説明につながり、当初3時間を予定していた報告会は4時間を経過しても不足し、後半の報告グループにはまことに申し訳なく、司会進

行役として怠慢であったと深く反省している。



各グループの説明内容は、ならやまでの活動の起こり、荒れ地から里山復元への苦勞、現在の具体的な活動内容、現状の課題と今後の活動についての考えなど、多岐にわたり、入会して4～5年までの参加者には初めて聞く話も多く、過去を知るいい機会にはなった。また、参加者は他のグループについて改めて知ることもあったと思われる。しかしながら、本来の目的であった自由な質疑の時間がほとんどとれず、ならやまプロジェクト全体として見つめなおす入り口にもたどり着けなかったために、かなりの消化不良となったことは否めない。

けれども、グループ間で交流し理解し合い、少しでもプロジェクト全体としての力につなげていくためには、こうした取り組みは今後とも不可欠だと考えている。まずは、消化不良の感が残っている近いうちに、今回の報告会に続く、質疑を中心とした集まりを企画したい。



報告いただいた各グループの皆さんはじめ参加いただいた皆さん、ありがとうございました。次の機会にはさらに議論が深まるよう努めますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 私の趣味

いつも自然と共に

岸田 玲子

若い頃、ユースホテルを利用してあちこち旅行に出掛けていましたが、尾瀬に行った時に燧ヶ岳と至仏山に登ってみたのがきっかけで、山に親しむようになりました。



体力には自信が無かったのですが、ちゃんと知識を得て登った方が良いと思い、YMCAの山岳会活動に参加し、そこで夫とも出会いました。

子育てで山とは遠ざかりましたが、家族でキャンプをしたり、信州へスキーに行ったり、お正月に車中泊で南紀旅行もしました。最近では人気の車中泊ですが、子供のおむつからおせちまで準備が大変で、寝袋は寒く、楽しみながらもとても疲れる旅でした。

その後息子たちに代わって愛犬を連れて近郊の山へ行くようになりました。お弁当をのぞき込んでよだれを垂らす愛犬はとても可愛らしく、呼ばずすぐに『ツケ』が



出来る賢いラブラドルでした。帰りの車では体中に付いたダニを、ガムテープでとってやったものです。泳ぐのが大好きなので、夏には琵琶湖によく連れて行きました。

愛犬を通じて飼い主同士の楽しい交流は、犬が亡くなった今でも続いています。



最近まで、仕事をリタイアした夫と共にあちこちの山に登っていました。なぜか『やぶこぎ』になるアドベンチャールート、夏は沢登り、スノーシューで行く春山、四国遍路に北海道の山々。スマホに変えてからは、地図もGPSもなくても現在地がわかるようになって便利になりました。が、膝や脚力が弱ってきたところにコロナや同居の義父母の高齢化も進み、出掛けづらくなりました。ちょうどそのタイミングで、ならやまでの活動に出合えて本当によかったと思っています。週に一度の里山暮らし体験、樹々の間に畑があり、花が咲き、蝶々や鳥が訪れて『あ～今日も来てよかった』と毎回思います。私の桃源郷を見つけた気分です。

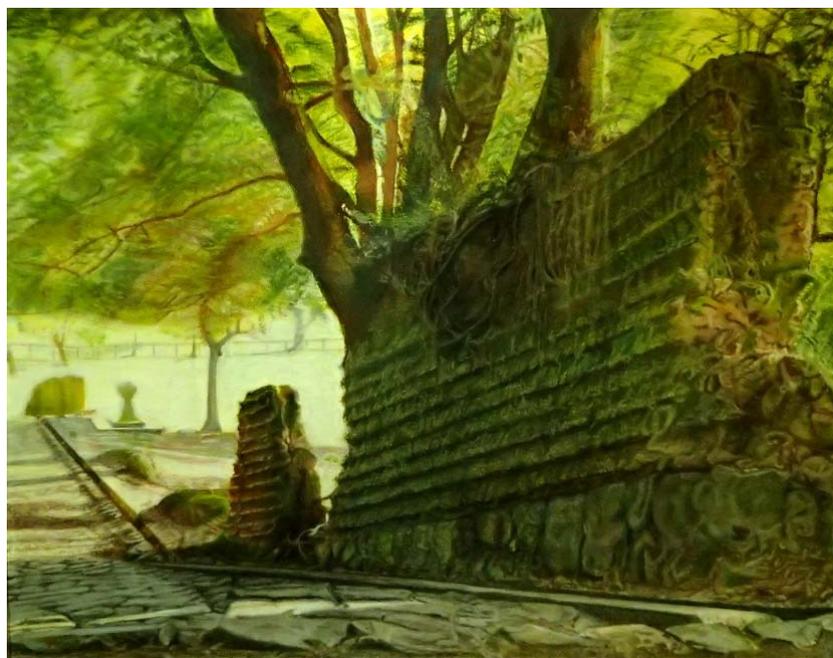
近年台風などの自然災害の影響で、山に入ると倒木が非常に多く、人手不足や高齢化で間伐出来ないままの真っ暗な森がいっぱいです。

素敵な里山も、ほとんどが空き家でひっそりとしています。里山の美しい自然もひとの手が入ってこそ輝くのだと実感します。

ならやまの桃源郷のような素晴らしい景観が、いつまでも続きますようにと願いながら活動が続けたいと思います。



# Gallery ならやま



オイルパステル 土塀の向こう 有元 康人



竹細工 兎 鈴木 末一



陶芸 多肉鉢 西岡 正平  
白土にナマコ釉と亜鉛系透明釉  
の掛け分け施釉 酸化焼成



写真 光る海 國方 まり子  
(大阪舞洲スポーツアイランドより)

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

# 行事案内



2月 月例研修会のご案内

## 法隆寺涅槃会・藤ノ木古墳の見学

富井 忠雄

法隆寺涅槃会は2月15日に釈迦が入滅されたとする日にその遺徳を讃える法要(法隆寺西院伽藍大講堂)が行われますので、その行事を拝見します。その後大宝蔵院、東院伽藍(夢殿)を拝観します。

法隆寺:607年、聖徳太子によって創建され、世界最古の木造建築として、平成5年(1993)に日本で最初に世界文化遺産に登録され、今年には30年目に当たります。1400年の時を超えて飛鳥時代を今に伝えています。

藤ノ木古墳:6世紀後半の大型円墳、昭和60年代の発掘調査で未盗掘の朱塗りの石棺内から、金属製の冠など多彩な副葬品が出土しています。また二人の被葬者については、現在も謎に包まれています。

記

日時:令和5年2月15日(水)雨天実施  
 集合:JR法隆寺駅改札口10時  
 持物:飲物、雨具、防寒着  
 費用:拝観料1500円、別途昼食代各自  
 申込先:富井忠雄  
 行程:法隆寺駅—藤ノ木古墳—西里の町並み—昼食(芳庵)—法隆寺涅槃会(西院伽藍)—大宝蔵院—東院伽藍(夢殿)—JR法隆寺駅16時頃解散 行程約6km



大講堂での涅槃図

## 「シイタケ菌打ちイベント」のご案内

山本 隆造

今年も依然として新型コロナの感染拡大は予断を許さない状況ですが、「シイタケ菌打ちイベント」を実施します。公開イベントとして子供たちの参加を募り、自然環境教育の一環として、下記の要領にて実施します。

記

- 1.日時:2月18日(土)9:00~13:00  
 雨天(前日19時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の午前中の降水確率が50%以上)の場合は、2月25日(土)に延期
- 2.場所:ならやまベースキャンプ及び里山林
- 3.内容:コロナ対策のため、昼食時間は設けず、午前中のイベントとして行います。  
 シイタケ菌打ち、コナラの植樹、里山遊びを3班に分かれ、1時間ごとのローテーションで実施します。
- 4.参加者:小学児童とそのご家族計60名
- 5.参加費:無料
- 6.持ち物:マスク、タオル、軍手、あればヘルメット、服装は長袖、長ズボン、防寒着、歩きやすい靴でご参加ください。  
 参加された子どもたちとそのご家族の皆さまには、シイタケ菌打ち作業や植樹、里山遊びを通じて、自然の豊かさ、自然の大切さを学んでいただきます。スタッフとして30名ほどの会員の皆さまのご参加をお願いいたします。



**2023年1月度 幹事会報告**

- I. はじめに
  - ・冬場の焚火について十分な消火・後始末の徹底について注意喚起
- II. 会計・総務部より
  - ・会員動向：149名 変わらず
  - ・会計：順調に推移
- III. 活動・行事関係
  - ・3/25 佐保川わいわい桜祭り  
自然工作で協力する方向で検討する。
  - ・3/30 新入会員歓迎会 予備日 4/6
- \*ならやまプロジェクト関係
  - ・12/29 活動納め 野菜販売・干支工作・門松
  - ・1/5 記念植樹後、会員向け自然観察会実施
  - ・N o 2 テント内に保管中の持ち主不明な不要長靴を廃棄整理する。
  - ・1/24 ならやまP報告会  
1グループ30分くらいで、忌憚のない質疑、交流を期待したい
  - ・2/18 シイタケイベントは午前中で計画
  - ・薪棚の屋根の補修が必要
- III. 企画、助成金事業案件
  - ・必要不可欠な大きな支出は事前確認のうえ、できるだけ前倒しで処理を
- IV 喫緊、提案事項
  - ・3/3(金)徳地先生一行(教師、学生10数名)ならやま見学受け入れ
  - ・2/10までに各グループの予算要求提出を
  - ・3/10を目途に、各グループの活動の実績と来年度計画を作成
- V 広報関係
  - ・ネイチャーなら2月号編集内容説明
- VI 報告・連絡事項、その他
  - ・月例研修会：1/10 三輪神社 2/15 法隆寺
  - ・自然教室：1/16 佐保川小校庭観察会(冬芽)

以上



奈良・人と自然の会で、果樹グループに入れていただき三年、何も知らないゼロの状態から、剪定、施肥、刈り払い機の使い方、コンポスト作り、ジャム、ピール等の製品作りと次々と新しいことを教えていただき、本当に新鮮な時間を過ごさせていただいています。

柚子、梅、ブルーベリー、檸檬、橘、キウイ、無花果・・・有機、無農薬で、丹精込めて育てた果実たち！ 教えていただいたレシピ通りに、大格闘して作り、朝の休憩時間にグループの皆さんに試食してもらい、OKをもらって、昼食後に会員の皆さまに買っていただく！

何と贅沢な時間を過ごさせていただいているのでしょうか！ 安心、安全な果実たちを育てて、添加物で、美味しくなあれと、心をこめて手作りをする。素人が作った製品を「美味しかったよ」って食べていただく。我々の試行錯誤、努力を認められたようで幸せいっぱい！

鹿さんとも仲良く折り合いを付けながら、夢の楽園で、蜜柑、キンカン、コゴミ、タラの芽、まだまだ沢山の作物づくりに挑戦していきたいと考えています。



\*\*\*\*\*

**3月ならやま活動&行事予告**

- \* ならやま活動(木) 3/2 協働活動日
- 3/30 新入会員歓迎会 予備日 4/6
- \* 自然観察会 3/6 お楽しみ観察会
- \* 佐保川わいわい桜祭り 3/25

発行：奈良・人と自然の会  
 URL： <http://www.naranature.com>  
 編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)  
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：7年前に植樹したコナラが、成長しました。